

稲城野草散策の会

野草スケッチ キンラン（ラン科）



1996/05/16 稲城市坂浜 絵と文 Ta

稲城のフィールドをいくつか紹介してきたが、忘れてならないものに「弾薬庫」がある。

「弾薬庫」とは穏やかでないが、旧日本陸軍が弾薬庫として使用していた経緯によるもので、正確には多摩弾薬庫跡地と言うべきであろう。

会報第99号 2013年3月30日発行 発行責任者 尼子 房夫

現在はもちろん弾薬などの物騒なものは置いていないが、米軍に接収され、「多摩サービス補助施設」として、横田基地が管理している。

米軍および家族の憩いの場であり、日本人は許可を得なければ入ることができない。

稲城野草散策の会では、毎年春のゴールデンウィーク頃に、許可を得て入場している。弾薬庫の観察会は、最大で参加者150人という記録がある、当会きっての「目玉商品」なのだ。

ここの広さは151haあって、一日中観察しても全部は見切れない。

中の施設としては、マレットゴルフ、馬場、キャンプ場、コテージ、食堂などがあるが、大部分は半世紀以上にわたって人手を加えていない雑木林だ。

キャンプサイトへの通路、およびその林縁などは整備されており、まったくの放置林ではないが、かなり自然度は高いといえる。

弾薬庫内の植物は、一言でいえば多摩丘陵の植生である。

もともと、多摩丘陵の一角だった土地を囲っただけなのだから、当然といえば当然だ。ただし、多摩丘陵で頻繁に繰り返される、開発や貴重な植物の盗掘はここにはない。私は、戦前の多摩丘陵がそのまま、タイムカプセルになっている、と表現している。他では消えてしまった、あるいは消えつつある植物が、数多く残っているのである。私たちもこの目でそれらの植物を確認してきた。

その中で印象に残った植物の一つにキンランがある。

キンランは他では見られなくなったわけではない。

手入れのよい、明るい雑木林では時折姿を見せる。

しかし、人目についたら最後、持っていかれてしまう。

なぜ人は盗掘などという、みみっちい「ドロボウ園芸」をやるのだろう。

なぜ、あるがままの姿を、独占せずに楽しむことができないのだろう。

悲しくなる。

ある年の春、稲城野草散策の会で弾薬庫内の観察会を行ったときのことである。

この年は、気候も時期も良かったのだろう、キンランの当たり年であった。

一番奥のあたりへ行ったとき、全員が歓声をあげた。

道端にキンランが何十本も咲いているのだ。

こんなすごい光景は、簡単にお目にかかれるものではない。

キンランだけでなく、エビネ、サイハイランなどの野生ランも健在だ。
高尾山あたりへ行かなければ見られないような植物もいくつかある。
かなりの植物通が、初めて見たという花もあった。
かつての多摩丘陵の生き証人ともいふべき、貴重なフィールドなのである。

最近、石原都知事の発言に端を発して、弾薬庫の返還を米軍に求める動きが活発化しつつあるようだ。

個人的な意見を言わせていただくと、返還は行わないほうが良い。

なぜならば、日本の管理になったとたん、あちこちをほじくりかえされ、拳銃の果てに貴重な植物を根こそぎ盗掘される。また、せっかくの林をつぶして小奇麗な花壇を作ったりするような愚拳が目に見えるからだ。

自然を守るということに関して、行政の管理能力は期待できないし、一般利用者の倫理感には地に落ちていると言わざるを得ない。

日本の業者や盗掘者が入り込めない「聖地」を残しておいてほしいと思うのは私だけだろうか。(2002年5月記)

* * * * *

〔観察記録〕 2月24日 城山～中央公園

稲城の会の行事予定をひっくり返してみると、最近の2月の定例観察会は1年おきに、城山公園で行われています。

集合場所の南多摩駅は大丸用水観察会や秋のおいしいオフでも利用するので馴染み深い駅ですが、年ごとに変化しています。この日、下り線ホームに下り立つと高架のホームになっていました。間もなく上り線も高架ホームになるでしょう。駅の北側の多摩川にかかる是政橋は2年前に完成しましたが、この橋へのアプローチ道路も整備されつつあります。南武線の高架化が完成するころには、この道路網も完成して、南多摩駅周辺の風景も一新されることでしょう。

さて、この日集まった方は41人、出発間際にも数人が合流されたようなので、参加者は40数人というところでしょうか。まずは大丸公園に向かい、そこから城山公園の林に入ります。稲城中央図書館を左に見て向陽台に向かいます。

「この図書館って、前からあったっけ？」という質問を受けました。その場では「かなり前からあったような・・・」と曖昧な返事をしたのですが、帰宅して調べてみると、開館は7年前でした。出発の頃は快晴で風も弱く、絶好の観察日和だったのですが、だんだん北風が強くなってきました。向陽台近くにちょっと小高いポイントがあって、展望台が作られています。当初はその辺で昼食休憩の

予定でしたが、その場所の標高は111m、北風が吹き抜けるということで、スーパー三和近くの陽だまりまで下りて昼食タイムとなりました。

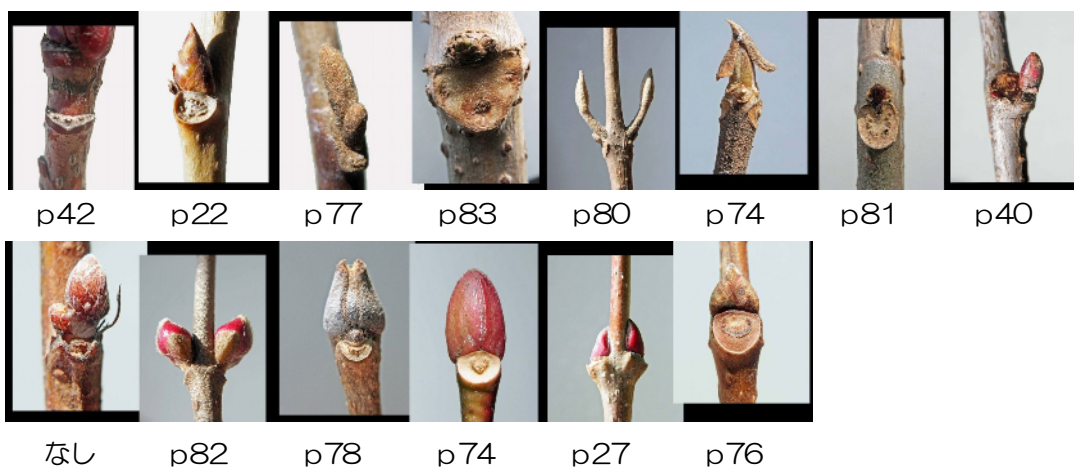
午後は、向陽台の住宅街を抜けて、野球場やら陸上競技場やら、立派な施設を横目に稲城中央公園に向かいました。今年は厳冬のため早咲きの桜すら蕾が固く、中央公園はいささか寂しい観察会となりました。出口近くでマンサクの花が見られたのが、ほんの少し慰めになったといえるでしょう。

帰路は三沢川を渡って薄葉谷戸のケンポナシを見て稲城駅に向かいました。2時半といういささか早い解散時間だったのですが、この日はその後気温が下がり続け、北風も一層強くなってきたので、早めの解散は正解だったと言えるかもしれません。

▼観察記録（出現順）

ヤマモモ、クヌギ、ナナカマド、ソメイヨシノ、ヤマグワ、ベニシダ、フモトシダ、エゴノキ、モミジイチゴ、ニワトコ、ムクノキ、マユミ、ヘクソカズラ、アケビ、シキミ、イボタノキ、ウグイスカグラ、ヒメカンスゲ、リョウブ、マルバアオダモ、アカシデ、ヤブムラサキ、ミズキ、タマノカンアオイ、ヤマブキ、ゴンズイ、アラカシ、ヒメコウゾ、コブシ、アカメガシワ、オオイヌノフグリ(花)、ヤマハンノキ(花)、ヤマトアオダモ、ムクゲ、エノキ、ノイバラ、ヤブコウジ、イヌシデ、ウワミズザクラ、トキリマメ、タニウツギ、ヤマハギ、オオイタビ(実)、ムベ、ビナンカズラ、ハリエンジュ、キブシ、ユリノキ、タブノキ、シモツケ、ヤマコウバシ、ヤマツツジ、アオハダ、マルバウツギ、ヒサカキ、ネジキ、コウヤボウキ、メギ、クロモジ、カツラ、トチノキ、ユズリハ、マテバシイ、カンヒザクラ、アンズ、ムラサキハシドイ、ニシキギ、ヒメリンゴ、ハナモモ、クマノミズキ、マンサク(花)、ガマ、ケンポナシ、イヌザクラ

◇たざわさんが撮った冬芽（「冬芽ハンドブック」のページ数です）



〔行事予定〕 2013/3/30（土） 裏高尾・小下沢、日影沢

項 目	説 明	地 図
集 合	am10時、日影沢の橋付近（今回は高尾駅ではないのでご注意ください） ※会旗目標	
交 通	JR中央線快速、特別快速高尾行きまたは京王線高尾山口行きをご利用下さい JR中央線高尾駅北口から2番乗り場、小仏行きバスで日影バス停まで来て日影沢の橋に集合して下さい バスは9時12分、32分、（52分）があります（220円）	
行く先 （解散場所）	裏高尾・小下沢、日影沢の溪流沿いの道、林道を歩きます 日影バス停 pm3時頃解散予定	
地 図		
コース	日影沢の橋→小下沢を奥まで歩き戻って来ます→日影沢→日影バス停（解散・・・15時頃） コースは天候その他により変更する場合があります	
見所・その他	スプリングエフェメラル（ニリンソウ、ハナネコノメなどの早春の花）	

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2013/4/14（日） 三沢川下り

項 目	説 明
集 合	am10時、京王相模原線・若葉台駅 改札口付近 ※会旗目標 若葉台駅の改札口は一個所だけです
交 通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で5駅目 多摩モノレールの場合、多摩センター駅で京王線に乗換えて2駅目 小田急線の場合は、永山駅または多摩センター駅で京王線に乗換え 若葉台駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	若葉台駅から三沢川に沿って稲城駅まで歩きます。 稲城駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	三沢川流域には雑木林や谷戸田など、豊かな自然が残っています ニリンソウなど春の花が見られると思います
地 図	
コース	若葉台駅→ふれあいの森→高勝寺→清水谷戸→学園広場→三沢川遊歩道→稲城駅（解散） 行程5～6km、部分的に山歩きのような道もあります。足元はしっかりしてご参加下さい コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円